



始



R
8
4

R028-Te247



1200500765819

圖書館書籍標準目錄 第二輯

帝國圖書館編

912
22

R
028
TE24

圖書館書籍標準目錄

第二輯

帝國圖書館



例言

「帝國圖書館標準目錄」は明治四十四年以來文部省に於て編纂刊行され來つたのであるが、昭和十四年「圖書時報」第一輯の刊行せらるゝやその附録として包括せられ、昭和十五年刊の第二輯に及んで遂に同目錄の編纂は中止せらるゝに至つた。是に於て本館は從來といふべき本館の方針を變へ、新刊圖書中より學術研究並に高度教養に資する圖書及資料を選択紹介し、書選擇の參考に供するを以て目的として之が編纂を繼續し年四回刊行することゝなつた。本館編輯には昭和十六年一月以降三月中に刊行せられたものゝ中より選擇輯録した。

昭和十六年六月



帝國圖書館

圖書館書籍標準目錄 第二輯

總記



古典的批判的處置に關する研究 第一、二、三部

池田龜鑑著

石波書房 昭一六・二 四六倍判 三冊 一八・七〇

第一部は日本の古典的文献の一としての土左日記を選んで、その本文を文献學的に批判した處置の實際を述べたものであり、第二部は左日記の本文の批判を基礎として、一般に日本の古典の批判的處置が如何に為さるべきであるかについての方法を體系的に考へたものであり、第三部はそれ等に就いての資料・年表・索引をまとめて輯録したものである。このやうに論文の組織は三部に分れてゐるが、しかし、研究の實際の過程に於ては、各部は決して分離せず、相互に前提となり合つて進められたものである。

總記

東方學報 東京 第一一冊之三 東方文化學院編

第一一冊之三 宋代の人口統計について(承前)(加藤繁)、支那建築の拱に關する一考察(飯田須賀斯)、九條家藏唐橋本毛詩寫本に就いて(内野熊一郎)、支那古刑私見(宇野精一)、支那佛教に於ける國家意識(横超慧日)、三國時代の歌謠について(私見(瀧邊一)、壁畫に於ける盛上げ描法(松本榮一)

毎日年鑑 昭和一六年

大阪毎日新聞社編

大阪 大阪毎日新聞社 昭二五・二〇 四六判 六七二頁 一・〇〇
別冊として日本人名選・滿支人名選が附せられてある。

補華山全集

鈴木清節編

豊橋 華山叢書出版會 昭一六・三 菊判 七四九頁 九・五〇
明治四十三年に第一卷、大正四年に第二卷を出し、昭和十三年に合本一巻となしたるものに些少の補訂を加へたものである。
華山の代表的書畫の寫眞版と、慣機論、鉄舌或問、西洋事情御答書、和蘭陀風説書を始め、系圖、書翰、日記、紀行、詩文、和歌俳句等著作の殆どすべてを収む。

蕃山全集 第一冊

熊澤蕃山著 正宗敦夫編

蕃山全集刊行會 昭一六・四 菊判 四六五頁 豫約四・五〇
附録三七頁
第一冊 集義和書 初版及二版本併記 卷末に集義和書を難じたる西川季格の「集義和書顯非」を附す。

山鹿素行全集

山鹿素行著 思想 廣瀬 豊編

岩波書店 昭一六・四 四六判 二冊 豫約各二・五〇
第四卷 山鹿語類 一
第一五卷 家譜年譜、年譜資料、家譜年譜參考資料、詩文、書簡 續徳堂書籍目録

宗教

紀元二千六百年奉祝 神道美術展覽會圖録 大倉集古館編

便利堂 昭一六・三 特大判 圖版九〇枚 二八・〇〇
大倉集古館主催、阪谷芳郎男を會長、大倉喜七郎男を副會長、瀧精一氏を委員長とする神道美術展覽會に於ける諸方の神社、寺院その他收藏家の神道に關する出陳品約百點の寫眞版を繪畫、彫刻、工藝、建築に分類して集めたものである。解説が附してある。

氣比宮社記

平松周家著 氣比神宮編

敦賀 氣比神宮 昭一六・二 菊判 三二七頁 五・〇〇
氣比神宮大宮司たりし著者が寶曆十一年に編纂せるもので、原本は九卷。宮社神傳部、年中祭祀部、國史、格式等の北陸道部標出、社傳舊記部より成る。神宮の古圖が添へてある。

經錄研究 前篇

林屋友次郎著

岩波書店發賣 昭一六・一 菊判 一三四三頁 一五・〇〇
支那譯佛典目錄の意たる經錄の概要及びその最初の權威書といはれる釋道安の「綜理衆經目錄」所載の譯出經に關する部分の研究

である。前・中・後篇に及ぶ豫定。

高野山文書 第六卷

高野山史編纂所編

京都 高野山文書刊行會 昭一六・三 菊判 三五〇頁 五・〇〇
東京帝大史料編纂所の大日本古文書家わけ第一高野山文書全八巻と併せて高野山關係諸文書の集大成を期すべく、高野山内各寺院並に舊高野寺領内各地の文書を家わけとして編纂せるものである。全十二巻に及ぶ豫定。
第六卷 家わけ第六 舊學侶方一派文書

續眞宗大系 別卷

眞宗典籍刊行會 昭一六・二 菊判 四〇五頁 四・二〇

別卷 數典鈔聞記(了祥)
數典鈔聞記續講(法住)

南傳大藏經 第六五卷

高楠博士功績記念會譯編

大藏出版株式會社 昭一六・二 菊判 三四三頁 豫約四・五〇
第六五卷 一切善見律註序、攝阿毘達磨義論、阿育王刻文

淨土宗大年表

藤本了泰著

大東出版社 昭一六・三 四六倍判 九一七頁 二五・〇〇
宗祖法然上人生涯の長承二年より昭和十五年に至る八百八年間の

年表で、淨土宗、同西山派の各祖、先徳の行歴、事業、著述等を始め寺院の創立由緒、朝廷幕府との關係、教團の法政經濟等を編年的に表示したものである。索引は日本年別索引、支那年別索引、人名索引の三種となつてゐる。

達摩 (禪叢書)

柴野恭堂著

弘文堂 昭一六・三 四六判 二二二頁 一・八〇

達摩の思想の解釋並にその後の思想的展開を主としたもので、従つて之等を通じて禪の梗概にも及んでゐる。最初に禪及び禪宗の起源について五十數頁に亘つて述べられてゐるが、之は達摩渡來以前の思想界を展望したもので、本論は達摩傳、達摩の思想、達摩より慧可、僧璨、道信、弘忍を経て慧能に至るまでの思想的展開の三部分に分つてある。學術書と云ふよりは教養的なものである。

武家時代と禪僧 (日本文化名)

辻善之助著

創元社 昭一六・三 四六判 三三九頁 一・五〇

著者の既刊書「日本佛教史の研究」(續日本佛教史の研究)及び「人物論叢」中より武家時代の主として禪僧に關する分を集めたものである。鎌倉時代に於ける禪宗と他宗との軋轢、道元、疎石、崇傳、澤庵、柳澤吉保の信仰についての論文及び講演を収む。著者は東京帝大名譽教授。

聖トマス・アクイナス その人 グラフマン著

長崎書店 昭一六・一 菊判 三〇一頁 文獻一七頁 二・八〇

Martin Grabmann, Thomas von Aquin の譯。原著者は現代ドイツの中世哲學者として著名である。昭和九年原著第五版に依つて譯出されたが、今回第六版に依つて増補訂正された。内容は第一部に於ては傳記を中心に苦難奮闘の學的活動を通じての敬虔なる人格を描き、第二部に於て聖トマスの神學、哲學、倫理學、國家論、美學、教會概念等が研究されてゐる。

東洋文化史上の基督教

溝口靖夫著

理想社出版部 昭一六・三 菊判 四五〇頁 三・八〇

「……基督教は儒佛回教などと同じく、世界の大宗教として東洋の一角に生れたのである。當にその起源に於いてのみならず、それは原始基督教の時代から東洋に廣まり、且つ東洋文化に對して幾多の影響を與へてゐる。基督教を除外して東洋文化史の全貌を知ることは不可能なことである。」と云ふ序の中に、本書著作の意圖が何はれる。本書は東洋文化史上に於ける基督教の地位の究明の中、特に範圍を波斯、印度、支那に於ける政教關係の考察に限つてゐる。その範圍に於て原始キリスト教並に教會時代から近年

に迄説き及んでゐる。著者は同志社大學を出られて渡米、シカゴ大學に於て東洋に於ける基督教と政治運動を主題に研究された由。

ペルシヤ宗教思想 (教養文庫)

足利惇氏著

弘文堂 昭一六・三 特小判 一五七頁 五・五〇

西紀六四〇年アラビヤ人は波斯に攻め入つて此の地に覇權を確立してゐる。この時以後の波斯は宗教的にもイスラム教、文化的にもイスラム文化を基調とする近世波斯が生れたわけであるが、本書ではこのアラビヤ人征服以前のサッサーニード王朝の欽定宗教であるゾロアスター教を中心に、或はマニ教、マズダク教、ミストラ教等の發展過程を検討しつゝ古代波斯の宗教思想を概観したものである。

哲學

國學 — その成立と國文學との關係 —

國民精神文化研究所 昭一六・三 菊判 四一〇頁 四・〇〇
本書は國學の成立とその精神とを考察し、併せて國文學との關係を論述せんとしたものである。國學に對する組織的な考察としては未だ至らざるところ又追求すべきところもあらうが、ともあれ國學に對する氏が意見と特に國文學を母胎としての國學を考へようとした點にこれ迄の多くの國學史と異なるものがあることを特筆してよいと思ふ。内容は國學の意義、國學の成立、國學の諸傾向、國學と國文學 國學の書史と參考。

三浦梅園の哲學 三枝博 音著
第一書房 昭一六・三 菊判 八二〇頁 六・五〇

三浦梅園は江戸後期の儒家、綾部有終に學を受け、條理學を唱へ論理學として「玄語」八卷「費語」十四卷を著し、陰陽消長の度、氣物融化的通を論ず「敢語」と共に「梅園三語」として著名である。本書は著者が外務省情報部の研究補助金にもとづいた「玄語」研究で、第二輯「梅園の哲學」に於て梅園哲學を概論し混論翻譯に就いて述べ、更に「玄語」の研究を開陳し、第二輯には和譯「玄語」を、第三輯には筆稿「玄語」全冊の寫眞を掲げて

行動主義心理學 (全體主義) 三隅一 下著
白揚社 昭一六・一 四六判 四九七頁 三・〇〇

本書は G. H. Mauds. Mind, Self and Society, from the Standpoint of a Social Behaviorist, 1934. の全譯である。原著は一九三一年、著者ミードの死後シカゴ大學出版部からの四遺著の第二冊目で、一九二七年 Advanced Social Psychology 「高等社會心理學」の講義速記を基として編纂されたものである。譯者は行動主義心理學の始祖とされてゐるミードの講義を數講座聽講し、譯本の題名もミードの「全體的、問題解決的」行動主義の學說を參照したものである。内容は「全體的行動主義の立場」「心」「自我」「社會」の四章及び「ミードの生活に就いて」よりなつてゐる。

性格心理學 改訂増補 正木 新著
刀江書院 昭一六・二 菊判 四三四頁 四・〇〇

性格心理學の立場と方法、性格の表現と理解、性格心理學の形態、性格心理學の應用、の三編及び附録診斷表よりなり、新興科學としての性格學に就いて外國の研究の忠實な紹介を試みた研究論文で、人間存在を單に抽象的思辨的に把握せず、更に進んで實驗的臨床的に又可能の範圍に於て實驗的に把握せんとするものである。本書の初版は昭和十二年四月刊行。學界の進歩と研究の蓄

ある。

水戸學大系 第二、五、八卷 高須芳次 郎編

- 水戸學大系刊行會 昭一六・二 菊版 三冊 各三・五〇
- 第二卷 會澤正志齋集
- 第五卷 水戸義公・烈公集 附森嚴然・佐々十竹集
- 第八卷 青山拙齋・青山佩弦集 附鶴峯海西集

精神現象學 中卷 (ヘーゲル全集第五) 金子武藏 譯
岩波書店 昭一六・三 菊判 六八〇頁 二・五〇

ヘーゲル百年祭を記念に岩波書店にて發行されたヘーゲル全集の中の一巻をなすもので、上巻は昭和七年六月刊行。本書中巻はラッソンの三版並にホフマイスター版によつて翻譯されたものである。中巻の部分は理性を説き特に難解のものとされてゐる。
原書 System der Wissenschaft, Theil I. Die Phänomenologie des Geistes.

民族心理學 大場 千 秋著
弘文堂 昭和一六・二 四六判 二七三頁 一・八〇

文化の心理學的研究について、民族心理學の史的回顧、原始民族とその心性、社會、通報、世界觀、藝術、科學の八章及び餘録よりなり、グントの民族心理學發達の法則並にグント以後の諸種の文獻を調整研究を重ねたもので、「原始文化の心理學的研究」の副書名を付してあるが如く、原始民族文化の事實を心理學的觀點に立ち原則を樹立せんと試みた研究論文である。

續により増補改訂の上出版したものである。著者正木正氏は浪速高校教授、依田新氏は東京高師教授。

古代詩歌に於ける神の概念

久松 潜一著
志田 延義著

國民精神文化研究所 昭一六・三 菊判 四一〇頁 四・〇〇
前篇は久松博士の擔任にして、萬葉集の本質に關する考察を試み、次に神の語義に對する考察を行ひ、更に萬葉集を四期に分つて各期に於ける神の概念を考察したものである。後篇は志田氏の擔任にして、神歌を中心としてその他の神社歌謠、神事歌謠、神事的歌謠を併せて考究せるものにして神歌の繼承關係、農耕の祭より見たる神歌、神樂歌の本體とその組織、傳説歌としての神歌を論究したものである。

西行全集

佐佐木信綱等編

文明社 昭一六・二 菊判 五三三頁 八・五〇
西行の全歌集並びに西行關係の文獻を網羅したもので、前編、後編の二部に分け、前編には總説・評傳・歌集叢刊を、後編に文獻叢刊を収める。擔當者並に收録歌集並に文獻は左の如くである。
西行總説(佐佐木信綱)、西行評傳(川田順)、歌集叢刊(葉校山家集・開書集・開書殘集・西行法師家集・西行法師和歌拾遺・御裳濯河歌合・宮河歌合・山家心中集・勅撰集所載西行和歌・六家抄中山家抄・西行山家集・歌枕もしほ草・追而加書西行上人和歌)

奥の細道・芭蕉・蕪村

志田 義秀著

修文堂 昭一六・三 菊判 三七〇頁 三・二〇
著者は東京帝大講師、文學博士にして芭蕉の研究は特に著名である。本書は著者が近年執筆したものの中から、特に主題關係の論文を抜粋輯録したものでして、殊に「奥の細道」の位置・性格、定稿の時期、傳本等に關する論文、又芭蕉と蕪村との比較論等いづれも豊富なる資料と燭眼なる攷證とは全くこの著者ならではの感に打たれるものが多い。

順代 虚子俳句全集 第四卷

高濱 虚子著

新潮社 昭一六・三 菊判 三八七頁 二・二〇
第四卷 昭和二年至昭和五年

芭蕉・去來

額原 退藏著

創元社 昭一六・三 四六判 三一六頁 一・四〇
貝おほひ・歌枕・市隱・輕み・所思・夏爐冬扇・芭蕉と壽貞・芭蕉の書畫・芭蕉俳諧に於ける季節感・俳諧の笑・芭蕉年譜、の諸項に分けて、芭蕉俳諧の本質を把握したもの、いづれも短章で大部分は諸雜誌等に發表されたものである。「去來」は蕉門十哲中最も芭蕉の信奉者であつた彼の俳諧を論じたものである。著者は元京

・解題(伊藤嘉夫)、文獻叢刊(御裳濯河歌合・宮河歌合・詳註西行上人談抄・撰集抄・西行物語繪詞・西行物語・西行一生蓮草紙・西行物語・西行上人發心記・謠曲・お伽草子・圓位上人古墳記・西行上人遠忌・西行關係文獻抄・解題(久曾神昇)

萬葉集研究年報

第一〇輯(昭和四年度) 萬葉三水會編

岩波書店 昭一六・二 菊判 一四四頁 一・八〇
昭和十四年一月より十二月に至る間に刊行された萬葉集關係の圖書、雜誌、新聞等に現はれた論文、その他諸學會・講演會・展覽會等の事件を蒐集記録してゐる。

萬葉の作品と時代

澤 瀧久 孝著

岩波書店 昭一六・三 菊判 二九七頁 二・五〇
著者は京都帝大教授、文學博士、萬葉集研究家である。本書は舊稿の中より主として萬葉集を時代的に考證したるものを輯めたるものにして、中には史書により作者の攷證を試みたるものもあるが、その多くは著者の得意とする調詠に根柢を置いたものである。しかもその考證の結果は、更に一々の作品に對する正しき調詠鑑賞への發見點を示すものである。輯むる所傳誦歌の成立、誤寫誤讀の問題を中心とし作品の時代的考察、「か」より「や」への推移、萬葉作者權攷、尾崎本萬葉集について、桂本萬葉集の文字の考證、校勘資料としての金澤本萬葉集等。

都帝大教授。

連歌青葉集

山田 孝雄編

誠徳書房 昭一六・一 特小判 三三〇頁 三・〇〇
連歌の世に行はれなくなつてからは實に年久しい。しかるに櫻に山田博士の東北帝大に連歌の講義開かれるや阿部・小宮・太川の諸教授を初め連歌に對する熱は鬱然として興り、昭和七年に賦花何連歌(百韻)が作られ、以降昭和十五年の賦唐何連歌(世吉)迄三十九の稽古連歌集が生れる迄になつた。それに今星加氏の千句を附録として出版したものが本書である。實に百年餘絶えてなき連歌の作品集である。

白秋詩歌集

北原 白秋著

河出書房 昭一六・一 三三 四六判 二册 各二・五〇 全八卷
第一卷 詩集(一) 邪宗門・思ひ出・東京景物詩及其他
第三卷 歌集(一) 桐の花・雲母集・雀の卵・觀想の秋・風隱集・海版

古淨瑠璃正本集 第二

大岡山書店 昭一六・二 菊判 五一頁 五・二〇
日本學術振興會の補助を得て研究出版したるものにして、第一卷は昭和十四年に上梓されてゐる。編纂方法などは前輯と同一にして本輯には「とうだいき」を初め二十四篇が輯録されてゐる。編者は慶應大學教授。

近世小説 上

創元社 昭一六・三 特小判 二七五頁 一・四〇
山口 剛著
大正十五年より昭和四年にかけて日本名著全集刊行會より刊行された「日本名著全集」の中、著者の執筆にかゝる西鶴・浮世草子・洒落本・人情本・滑稽本・膝栗毛・怪異小説・讀本・黄表紙・田舎源氏、すなはち近世小説の全般にわたる解説を上中下三冊に綜合編輯したものである。上には西鶴と浮世草子と怪異小説を収めてゐる。

支那文學史

上卷 (支那文) 譚正鵠著
人文閣 昭一六・三 四六判 三一六頁 二・八〇
原書名は「中國文學史」、詩經より各代の作家作品に及び、宋代までは詩賦を主とし、元は曲、明清は小説戯曲に重點を置き、更に民國以後の現代文學をも詳説してゐる。原著者は最初に作家、現在は啓蒙的文學史家として知られてゐる。

英吉利浪漫象徴詩風 卷下

日夏秋之介著
白水社 昭一六・二 菊判 四二五頁 三・八〇
卷下 ボオ・ロゼツテイ・トムスン・ワイルド・イエイツ・比較的考察、英吉利象徴文學概説 附録ラファディオ・ヘルンの沙翁論

ウル・マイステル研究

木村 謹 治著
弘文堂 昭一六・三 菊判 五一〇頁 四・三〇
ゲーテの「ウイヘルム・マイステル」の初稿「ウイヘルム・マイステルの演劇使命」の研究である。「フアウスト」の初稿が「ウル・フアウスト」と呼ばれると同じく、これを「ウル・マイステル」と呼ぶのである。「ウル・フアウスト」は彼の死後半世紀にし

鏡花全集 卷四

岩波書店 昭一六・三 四六判 豫約二・六〇
卷四 辰巳巷談 他二三篇

眞山青果全集 第五、六卷

眞山 青果著
大日本雄辯會講談社 昭一六・二・三 四六判 二冊 各三・五〇
第五卷 國定忠次 他四篇
第七卷 江戸城總攻 他七篇

水上瀧太郎全集 一、五卷

水上瀧太郎著
岩波書店 昭一六・一・三 四六判 二冊 豫約各三・〇〇
一卷 小説(一) 山の手の子 他一四篇
五卷 小説(五) 勤人 他一篇

山本有三全集 第七卷

山本 有三著
岩波書店 昭一六・二 四六判 六四八頁 各二・五〇
第七卷 新 路傍の石

吉江喬松全集 第三卷

吉江 喬松著
白水社 昭一六・三 菊判 五〇四頁 三・八〇
全六卷 第三卷 佛蘭西印象記、佛蘭西文藝印象記

て発見されたが、本書は更に約四半世紀後れて世界大戦の四年前に発見されたものである。本研究は「ウル・マイステル」成立の温床としてのゲーテの生活體験、ウル・マイステルの成立、ウル・マイステルの構成とその解釋、ウル・マイステルの問題に就いて、の諸項に亘つて、ドイツに於ける諸研究を檢討し、更に作品成立の母胎であるゲーテの體験を考察したものである。

近代佛蘭西に獨逸の影響

ルネ・レイノオ著 佐藤 輝 夫譯
理想社出版部 昭一六・三 菊判 四三〇頁 三・五〇
フランスのクレルモン大學教授たりし Louis Raymond G. L'influence allemande en France au XVIIIe et au XIXe siècle, 1828 の譯。一七五〇年より一八一四年までを聖孔時代、一八一五年より一九一四年までを侵入時代として、ドイツ思想のフランスの文學及び一般思想界に及ぼせる影響を古典派の見地より述べたものである。卷末に詳細なる文献目録を附す。

ゲーテ的人間 (教養)

蘭田 香 勳著
弘文堂 昭一六・二 特小判 一六八頁 〇・五〇
根元體験・天才・典型・象徴の四篇に分けて、ゲーテの生涯の發展に即して、時の制限に應じ、環境に即して、變貌するゲーテを論じ、しかもその凡てを貫ぬくゲーテ性を述べたものである。著者は大阪商大高商部教授兼兼科教授。

シエイクスピアと獨逸精神 上卷 (岩波)

グンドルフ著 竹内敏雄譯

岩波書店 昭一六・二 特小判 三〇四頁 〇・六〇
ドイツ文學史の一つの思潮を代表するグンドルフの *Die deutsche Literatur und der deutsche Geist*, 1911 の全譯で、精神史の方法をドイツ文學史の問題に適用した最初の典型的な試みとして劃期的意義を認められたものである。素材、形式、内容の三大階梯を通じて、シエイクスピアの十七、八世紀のドイツ文學史の發展への交渉と影響を把握し、ドイツ精神の超個人的な、しかも實在的な生の運動をそのシエイクスピア像の變轉において觀得せんとするものである。

シラーと希臘悲劇

新關良三著

東京堂 昭一六・一 菊判 五三九頁 六・〇〇
悲劇作家としてのシラーがギリシヤ悲劇に對して、制作的に、理論的に如何なる關係に立つかを研究したもので、第一章にて彼の古代語・古代文學、特にギリシヤ詩・ギリシヤ悲劇研究の過程及成果を彼の生活的記錄に基いて述べ、第二章にてシラーの藝術的、特に演劇藝術的活動の上に現はれたギリシヤ悲劇の感化の痕跡に就て、理論と制作の二方面より論證的に記述し、最後にその實踐的な仕事としてのギリシヤ悲劇の翻譯及作品「メツシナの

許嫁」を論じたものである。著者は學習院教授・文學博士。本書はその學位論文である。

トルストイ傳 第一卷

ビリューコフ著 原久一郎譯

中央公論社 昭一六・三 菊判 六七二頁 五・〇〇
トルストイ傳として最も權威あるものと云はれるビリューコフのトルストイ傳の全譯である。一九二一年獨逸にて出版された翻譯版をテキストとし、更に親しくビリューコフより譯者に贈られたソグイェート國立出版所の決定版により修正加筆したものである。本書の翻譯は既に十六年前、同じく譯者により出版されたものであるが、原書が修正増補されてゐるので、是に従つて改譯されたものである。全四卷で第一卷は彼の結婚までである。

アナトオル・フランス長篇小説全集 第三、四卷

アナトオル・フランス著

白水社 昭一六・一・二 四六判 二册 各一・五〇
全一七卷。既に昨年九月第一卷、十二月第二卷が刊行されてゐる。
第三卷 現代史 第一 散步道の楡の樹 (水野成夫譯)
第四卷 現代史 第二 柳のひとがた (大岩誠譯)

シラー選集 第一卷

新關良三編

富山房 昭一六・三 特小判 五二五頁 三・〇〇
全六卷。編者は學習院教授・文學博士。
第一卷 詩抄 第一、二部 (木村謙治譯)
犯罪人 (野村行一譯)
見靈者 (櫻井和市譯)
運命の戯れ (中込良三譯)
詩人及び小説作家としてのシラー (新關良三著)

トーマス・マン全集 第一卷 トーマス・マン著

三笠書房 昭一六・一 四六判 二六八頁 一・八〇
全十九卷。
第一卷 愛の孤獨、トリスタン・トピアス、佩儂のフライデマン (豊永喜之譯)

ヘルマン・ヘッセ全集 第一、一八、別卷

ヘルマン・ヘッセ著

三笠書房 昭一六・一・三 四六判 三册 各一・五〇
第一卷 死と愛 (ナルチスとゴルトムント) (藤岡光一譯)
第一八卷 知と愛の物語 (佐藤晃一譯)
別卷 ヘッセ研究 (秋山六郎兵衛著)

ワグナー全集 樂劇第二、四卷

ワグナー著 小笠原稔譯

河出書房 昭一六・一・三 四六判 三册 各二・四〇
第二卷 ローエングリン、トリスタンとイゾルデ
第三卷 ニュルンベルクのマイスタージンガー
第四卷 ラインの黄金、ワルキューレ

伊京集

帝國圖書館編

京都 便利堂 昭一六・三 和裝大本 解説共二冊 一八・〇〇
帝國圖書館蔵の古鈔本伊京集を複製したもので、内容は節用集と類を同じふせる通俗字書である。伊より始めて京に終ると云ふ意味で伊京集の名が附せられてあるが、橋本通吉博士の研究に依れば本書は帝國圖書館に唯一本を存するのみの天下の孤本の由である。

言語活動と生活

(岩波文庫)

シャルル・バイイ著
小林英夫譯

岩波書店 昭一六・三 特小判 三五〇頁 〇・六〇

第一篇に於て我々の日常生活がいかに我々の言語活動に反映するかを見、第二篇に於て日常通用の言語たる國語の表現價值を研究する科學の存立を述べ、それに文體論の名を與へ、第三篇に於て、表現手順の秘密を白日下にもたらし、第四篇に於て、國語と文語との相互關係を詳論し、第五篇に於ては社會的拘束が言語活動に對しいかなる反響を及ぼし、それいかなる屈折を與へるかを説き、最後第六篇に於て、言語教授法についての一家言を開陳してゐる。とに角車近日常接觸の言語現象のうちに、言語活動一般を支配する大原則を見出さうとした處に本書の特色がある。

譯者は京城帝大助教授

國語問題正義

新村 出著

白水社 昭一六・二 菊判 二八八頁 二・五〇

著者が古くから最近に至る迄の間に執筆されたり、或は講演されたりしたものゝ内から特に國語に關する論文を輯録されたものであつて、收むるところ、國語運動と國語教育、國語問題の根本概念・外來語是非論・國字の將來・國語規範論序説・日本文典の兩種・日本文典の現實と理想・歐洲に於ける國語競争・國語問題今昔談の九篇。いづれも國語問題に關聯せるものであり、國語の傳統を確保し且つ尊重せなければならぬとの信念のもとに論述されたものにして、現下殊に國語問題のやかましき折柄著者の見解は多くの示唆と又大きな役割を演ずるであらうと考へるものである。

ドイツ文章論

相良 守 峰著

岩波書店 昭一六・三 菊判 二一九頁 二・二〇

現代のドイツ文法、特に文章論を眼目としてドイツ文の本質や運用について研究されたものである。著者は東京帝大助教授。

訂修大日本國語辭典 第四、五卷

上田 萬年 著

富山房 昭一六・二・一三 四六倍判 二冊 各一五・〇〇

巻に昭和十五年一月に第二卷を刊行以來、同年五月に第三卷を續刊し、次で第一卷を同年十月に出版して茲にア行よりワ行迄完結した譯である。更に増補別巻と索引とが刊行されると云ふ。

最新 蒙露日大辭典

石田 喜與 司 著

學藝社 昭一六・二 四六倍判 八三〇頁 四〇・〇〇

本辭典は南滿洲鐵道株式會社調査部に依つて編纂されたもので、實際の仕事をした石田、ヒオニン兩氏は共に滿鐵社員として外蒙研究に従事されてゐる。一九三七年にソ聯に於て刊行されたチエレミソフ、ルミヤンツエフ共著の新ハルハ蒙古語辭典を參考として出来たもので、我國に於ては固より、今日のところでは世界最新のハルハ蒙古語(外蒙)辭典である。

歴史

近世佛蘭西史學概観

カミーユ・ジュリアン著 井 鐵 男譯 白水社 昭一六・二 四六判 二四一頁 一・五〇

歴史理論の構成

歴史教育研究会編 四海書房 昭一六・三 菊判 五二六頁 四・五〇

し、上欄には記事の綱目、本文の校異を掲ぐ。 第一〇 三代實録中(卷一四一三二) 第一一 三代實録下(卷三三三—三五〇) 昭和七年より同十二年までの既刊分は日本書紀上下、續日本紀上下、三代實録上。

蹇蹇録

陸 奥 宗 光著 岩波書店 昭一六・一 菊判 二八二頁 二・〇〇

黎明期の海外交通史

東恩納寛惇著 帝國教育會出版部 昭一六・一 菊判 四三六頁 三・八〇

大日本年表

大日本圖書株式會社 昭一六・一 菊判 五〇八頁 四・〇〇

一般史(現代日本文明史第一卷)

渡邊幾治郎著 東洋經濟新報社 昭一六・二 菊判 六〇四頁 三・二〇

補六 國史

佐伯有義編 朝日新聞社 昭一六・二 菊判 四六八頁 豫約二・〇〇

國六 國史

武田祐吉編 今泉忠義編 大岡山書店 昭一六・三 四六判 二冊 各三・八〇

維新史料綱要

維新史料編纂事務局編 同局 昭一六・三 菊判 五三六頁 六・〇〇

卷一 自弘化三年二月 至安政元年十二月	卷二 自安政二年正月 至安政五年六月
卷四 自文久二年正月 至元治元年十二月	卷五 自元治元年十二月 至慶應三年正月
卷七 自慶應三年正月 至明治元年四月	卷八 自明治元年四月 至明治二年七月
卷九 自明治二年七月 至明治四年七月	卷一〇 自明治四年七月 至明治五年七月

史料大成

笹川種郎編 内外書籍株式會社 昭和一六・二 菊判 三二六頁 豫約三・二〇

大日本古文書

東京帝國大史料編纂所編 同所 昭一五・六 菊判 三八八頁 附錄一四六頁 豫約五・〇〇

卷之二五(補遺二) 自天平勝寶二年至寶龜七年
(附録正倉院御物出納文書)

大日本史料 第八編之二〇

東京帝國大史料編纂所編
學文學部
同所 昭一五・五 菊判 九六九頁 豫約七・〇〇
第八編之二〇 後土御門天皇 自長享元年二月至同年十一月

河南安陽遺物の研究

梅原末治編
京都 桑名文星堂 昭一六・三 特大判 七頁 圖版四五枚 二二・〇〇
昭和十五年に發行した「河南安陽遺寶」(本目錄第一輯二二頁)の續編たるべきものである。安陽出土の白色土器及び玉石器を主とする論文と圖版を収む。

東洋讀史地圖

富山房 昭一六・二 四六倍判 地圖三七枚 解説六四頁 七・五〇
大正元年に初版、同十四年に四版を出したものと改訂新版。標準年代の規定を緩くし、全圖に互つて多少の増訂を施した外、特に支那古地圖三葉、敦煌附近長城遺蹟圖、唐長安城坊圖及び清末以降の三圖を新に加へた。菊倍判より四六倍判に改む。凡例解説は殆ど舊に従ふ。補訂者は東京帝大教授、文學博士。

和內 田 亘編
清補

露支交渉史序説

ガストン・カーエン著
東亞外交史研究會譯
生活社 昭一六・二 菊判 一八四頁 二・二〇
Gaston Calen の原本 Histoire d'a relations de la Russie avec la Chine sous Pierre Le Grand, 1689-1730 を参照して、その英譯 Some Early Russo-Chinese Relations を東洋文庫内の東亞外交史研究會同人たる出石誠彦、沼田綱雄、久野昇一、矢澤利彦の諸氏が譯出せるものである。主としてピーター大帝時代の露支關係史。



世界大戰回顧録 第七卷

ロイド・ジョージ著
内山賢次等譯
改造社 昭一六・三 四六判 四〇八頁 二・五〇

ヘロドトス歴史 下巻

ヘロドトス著
青木巖譯
生活社 昭一六・三 菊判 四五八頁 索引二四頁 四・八〇
「歴史の父」といはれるヘロドトスの、ペルシヤ戦争を記せる Histories の巻五より巻九までをギリシヤ原文より譯出したものである。巻末に J. E. Shotwell の The History of History (1937)

所載の「ヘロドトス―その人と歴史」を収む。ペルシヤ戦争の序説たるべき巻一より巻四までを収めた上巻は昭和十五年に刊行されてゐる。

傳記

上宮聖德法王帝説

(岩波)

花山信勝校譯

岩波書店 昭一六・二

特小判 一七八頁・四〇

本書は聖德太子中心の古記古銘を徵集したもので、一部の纏つた太子傳ではないが、狩谷掖齋が法隆寺藏の古寫本を寫して之に證註を加へて以來著名である。掖齋の證註に更に平子鐸嶺氏が補校を加へ、平子氏の歿後大正二年前上宮聖德法王帝説證註として上木されたが、之は間もなく絶版となつて了つた。今回之を文庫本によつて再刊されたのであるが、再刊に當つて花山、家永兩氏に依つて左右頁對譯に調讀譯文が施され、更に關係主要文献を卷末に附して研究に便ならしめてある。

聖將東郷全傳 第三卷

小笠原長生編著

聖將東郷全傳刊行會

昭一六・二 菊判 七三六頁 六・五〇

第三卷 言行錄

大西郷書翰大成 第五卷

西郷隆盛著

平凡社 昭一六・二

菊判 二七〇頁 豫約二・八〇

第五卷 詩歌、遺訓及遺教、漢文、草稿

ジョン・ラスキン

麻木米次郎著

多摩書房

昭一六・二 四六判 四七七頁 二・五〇

この著者には數年以前同じ書名のラスキン傳があるが、この前著が結婚までの若き日のラスキンを主としたものであつたのに対し、今回は生涯に亘つての評傳である。

ペスタロッチ傳 第五卷

ハインリヒ・モルフ著

長田

新譯

岩波書店 昭一六・三 菊判 五〇四頁 附三二頁 三・八〇

H. Ulrich Meier, Zur Biographie Pestalozzis, 1865-1899の全譯で原著四卷を五冊に分譯し、本卷はその最後卷として第七章より第十章迄が譯出されてゐる。尙附録としてペスタロッチ略年譜、索引等が附せられてある。

地誌及紀行

地政治學の基礎理論

ハウスホーファー等著

科學主義工業社

昭一六・二 四六判 二三六頁 一・五〇

地政治學概念の史的發展、地政治學の基礎・本質及び目標・地政治學の本質の三篇を収めてゐる。ハウスホーファー及マウル等の地政治學の理論的研究である。

地政治學論

チエレーン著

科學主義工業社

阿部市五郎譯

地政治學の造詣者であり、創始者たるスウェーデンの歴史家・國家學者ルドルフ・チエレーンの「生活形態としての國家」(Die Staat als Lebensform)の第二章の全譯である。この章は彼の地政治學に關する見解を最も明瞭に示したものであり、地政治學の古典的文獻として最も重要なものの一とされてゐる。

世界地理

第五卷

河出書房編

河出書房 昭一六・二 菊判 三七一頁 三・五〇

第五卷 支那 第三

地誌及紀行

訂改海南島志

陳銘 編

井出

季和 太譯

前廣東省主席陳銘總監督の下に廣東省南區善後公署派遣の各縣市調査員の實地調査、其他の資料により編纂され民國二十二年一月刊行を見たもので、詳細な海南島誌である。特に土地・交通・經濟・農林・鹽鐵・漁業等に關して詳説されてゐる。本譯の初版は臺灣總督府熱帶産業調査會より昭和十一年十二月に刊行されたが、増補改訂を加へて再刊されたものである。譯者は前臺灣總督府囑託、現在滿鐵東亞經濟調査局勤務。

大南一統志 第一輯

印度支那研究會編

印度支那研究會

昭一六・三 菊判 九三〇頁 非賣

一に「安南一統志」とも云はれ、舊安南王國の漢文體地誌である。舊安南國維新帝の勅命により、高春育等により選述せられ、一九一〇年刊行されたものである。本書はその全十七卷を二輯に分けて複製したものである。

國家學

政治問答

他一篇 (岩波文庫) 相原信 作譯

岩波書店 昭一六・二 特小判 八七頁 二〇
ランケ自身が編輯した「歴史・政治雜誌」の最終號(一八三八年)所載の論文「政治問答」と、ベルリン大學正教授就任演説(一八三六年)たる「歴史と政治の類似及び相違について」の二篇を収む。共に、ついで歴史家としてのランケの政治觀を見るべきものである。

先秦政治思想史

(創元支那叢書ノ中)

梁啓超 著 重澤俊郎 譯

創元社 昭一六・一 四六判 三八〇頁 一・七〇

譯者の序に「私が本書を邦譯したのは、本書の研究法や結論を絶對的に支持するが爲では勿論ない。前にも述べた如く、今日から見れば多くの批判するべき點を持つてゐる。たゞ原著者梁啓超が思想的にも學術的にも新支那誕生の動力として、新支那の思想學術を理解する上には、一應は理解されなければならない處に重大な意義を認めるからである」とある。原著者は孫文等と同じ時代に日本に亡命して居た學者で、本書は民國十一年に南京の東南大

學及び法政専門學校に於ける講義である。本講義は初め現代迄續けられる豫定であつたが病の爲漢以後は中止せられ、先秦政治思想史として民國十二年に刊行されたものである。

日本都市年鑑

昭和十六年 一〇〇回

東京市政調査會

東京市政調査會 昭一六・一 菊判 六九六頁 三・八〇
總説、市域人口、市役所、市會、都市計畫、交通、運輸、瓦斯事業、上水道事業、保健衛生、住宅、社會事業、教育、警察、保安娛樂、歡樂、經濟、經濟行政、財政等について分類表記し、更に滿洲國都市、支那都市、外國都市等についても統計を列記した便宜なる圖書である。

新獨逸國家大系

第八卷

新獨逸國家大系刊行會編

日本評論社 昭一六・二 菊判 四八九頁 豫約二・五〇

第八卷 法律篇 第四

ドイツ行政法

宮澤俊義 譯

行政に於ける權利保護

ユスツス・ダンクワエルツ(ハレ市長)著 田中二郎譯

行政法の基礎理論 (二)

柳瀬良幹 著

弘文堂 昭一六・三 菊判 三二九頁 四・〇〇

本冊には、先決問題の觀念、司法裁判所の先決問題審理權、道路隣地者の求償權、既得權の理論、警察の觀念、警察權の限界、警察と補償、公物の所有權の八篇より成る。尙ほ本書の一般については本日録第一輯二九頁參照。著者は東北帝大法文學部教授。

昭和十四年の國際情勢

日本國際協會編

同會 昭一六・三 四六判 九九二頁 四・五〇

國際關係の複雑重要となつて來た現在に於て國際問題を正確忠實に記述解説した圖書の要望に應ずるため「昭和十年の國際情勢」以後毎年刊行されてゐる。(括弧内は頁數)

支那事變(一―四三四)、我が對外關係(四三五―五〇〇)、南方諸國(五〇一―六二三)、印度及近東諸國(六二三―七〇〇)、第二次歐洲大戰(七〇一―九五六)、米洲(九五七―九五二)。

法哲學原理

デル・ヴェキオ著
和田小次郎譯

岩波書店 昭一六・一 菊判 五五五頁 四・三〇
本書は伊太利に於てのみならず世界現存の有数な法律哲學者として著名なる著者の最も綜括的體系的な「法律哲學講座」(Lezioni di filosofia del diritto, 3ed., Roma, 1936)の翻譯書で巻頭に日本語版の序文を附してある。内容は緒論(法哲學の意義及課題、法哲學と隣接諸學との關係、學的方法一般及び法哲學の方法)、法哲學の歴史(章名略)、法哲學の體系(法の概念、法の起原と歴史的發達、法の合理的基礎)より成る。

日本法制史研究

瀧川政次郎著

有斐閣 昭和一六・三 菊判 七九〇頁 八・〇〇
本書は著者が大正十二年以降昭和十四年に至るまでに雜誌其他に發表した論稿中日本法制史に關するものを集めたもので、内容は、總叙に於て「日本法制史概説」、「日本法律生活の特質」、「律令制度概説」、「律令の特色と實施」を載せ、以下法源・制度・刑

法・訴訟法・物權法・親族相續法・法學・雜纂に分つて二十六篇を載せてある。著者は建國大學教授、法學博士。

新監獄學

正木亮著

行政を基點として考察したる自由刑
有斐閣 昭一六・一 菊判 四四〇頁 索引一六頁 四・五〇
本書は上記副書名を題名として提出した學位論文を公刊したもので、著者によれば「從來の監獄學は制度そのものを中心として形成せられて居たが、本著は人そのものを主とし人の教育を重點として制度の發達を研究し將來を展望して以て監獄學の行術を論じ」たものである。内容は緒論、自由刑の内容と囚人の法律的地位、自由刑に於ける累進制度、自由刑執行に於ける自治制の發生とその意義の四編より成り附録として教育刑と倫理刑、刑事學者としてヨハン・ハインリッヒ・ベスタロッチの二篇を附してある。著者は司法省行刑局長、法學博士。

日本檢察法論

佐々波與佐次郎著

有斐閣 昭一六・二 菊判 四四五頁 四・五〇
本書は、憲法、裁判所構成法、刑事訴訟法、其他刑事諸法規規令中に存する我國檢察機構及檢察權運用に關する法規を對象とした研究書で上巻には、檢察機關(檢事・檢事局・職務權限)・搜查總論(搜查・搜查機關・搜查端緒)・通常搜查(總説・任意出頭・承諾

同行・任意供述・聽取書作成・書面提出・物件領置・實況見分・鑑定囑託)を収めてある。著者は大審院檢事

御觸書天保集成 下卷

高柳良三編

岩波書店 昭一六・三 菊判 九三〇頁 七・〇〇
本書は徳川幕府時代公布された重要法令を數次に亘つて類聚編纂した御觸書の集成の一巻をなすもので本叢刊は東北帝大高柳教授及東京帝大石井助教授が帝國圖書館本を基礎とし内閣文庫・神宮文庫・東大法學部研究室の各に所藏されるものを以て校勘を加へ編輯し、公刊したもので本巻は其の最終巻をなす。巻末に石井助教授が執筆した御觸書編纂の沿革を附してある。尙ほ既刊のものは次の如し。
御觸書寛保集成(一三七〇頁) 御觸書寶曆集成(五九六頁)
御觸書天明集成(九七二頁) 御觸書天保集成上(一一二二頁)
御觸書天明集成(六・五〇頁) 御觸書天保集成上(七・〇〇頁)

大阪商科大学 記念論文集

大阪商科大学編

岩波書店 昭一六・二 菊判 七八三頁 八・〇〇
全體を經濟編(十七篇)、商業篇(十六篇)、法律篇(七篇)、文化編(五編)に分ち大阪商科大学學部、高等商業部、豫科の教授助教等四十五名の論稿より成る。

東亞經濟研究

(日本學術振興會第二及第十四特別委員會報告) 第一

日本學術振興會第二及第十四特別委員會編

有斐閣 昭和一六・三 四六判 五五二頁 附録四七頁 三・五〇

本書は、滿洲農業移民の研究公表を終り滿支の資源問題、經濟問題の研究に移つた同會第二特別委員會並に東亞共榮圈内に於ける國土計畫及産業立地の問題をその研究項目とする第十四特別委員會の報告書中より編纂されたもので本巻には名和統一執筆「支那に於ける紡績業と棉花」木村和三郎執筆「北支石炭經濟論」の二篇と附録として河田嗣郎執筆「新民精神的三民主義に就て」の論文とより成つてゐる。

經濟團體總覽

東京商工會議所編

富山房 昭一六・二 三六判 四一八頁 二・三・〇

經濟關係の諸團體及び國策會社約五〇〇ヶ所につき左の諸項目を調査録したものである。

- 名稱・所在地・目的・設立・沿革・役員及代表者・事務主宰者
- 又は理事・組織・加盟者資格・加盟者數・年産額・年取扱額等
- ・事業・統制・地區・出張額等・經費・豫算決算・存続期間・刊行物等
- 尙ほその内容区分は次の如し。
- 商工業一般・工業一般・鑛業一般・原始産業・商業一般・貿易
- 一般・金融・交通通信・紡績品關係・金屬品關係・機關器具關係
- ・窯業及化學關係・食料品關係・雜工業品關係・燃料及動力
- 關係・其ノ他

經濟社會學の根本問題

經濟社會學者としてのスミスとリスト

高島善哉著

日本評論社 昭一六・三 菊判 五一八頁 四・五〇

著者がザリーンの國民經濟學史に傾倒して以來、一面に於て傳統

經濟政策の諸問題

(日本經濟政策學會) 會年報第一輯

日本經濟政策學會編

日本評論社 昭一六・二 菊判 四八五頁 三・五〇

經濟政策に關係ある全國學者が經濟政策の理論實際に亘る研究の進展を期し昭和十五年結成した前記協會の公開講演及び報告を集録せるもので、統制經濟の諸問題、政策原理の研究・農業政策・工業政策・財政金融政策・交通政策・社會政策の各部に分ち編まれ二十論文より成つてゐる。なほ論文の終りに之に對する質疑應答を附してゐるものが多い。

戰時經濟と勞務統制

(戰時經濟國策) 大系第三卷

内藤寬一著

産業經濟學會 昭一六・二 菊判 六三八頁 六・〇〇

事變下勞務需要の激増と轉失業の發生とに對應し政府に於ては所要勞務の充足、勞働力の維持培養、勞働生産性の向上並に轉廢業對策等の各般の勞務對策が講ぜられてゐるが本書は厚生省職業局長たる著者が此等の國家施設全般に亘つて説述したもので、「總説」編に於て現下勞務動員の性質と狀況について總括的に述べ、「各説」篇に於て勞務配置機關、勞務資源の調査、勞務配置、職業指導と勞務輔導、勞務者の養成と技術檢定、賃金の統制、事變關係離職者對策について細説されてゐる。終りに關係法規(九

リカードウ研究

(經濟學名著) 續譯叢書9

ジエー・エイチ・ホランダ著 山 下 英 夫譯

有斐閣 昭一六・三 菊判 二三一頁 二・五〇

本書はリカードウの詳細な傳記書として著名なホランダの名著 David Ricardo, a centenary estimate, 1910 の翻譯である。内容は生涯・著作・影響の三部分より成り附録として Quarterly Journal of Economics の一九〇四年八月號誌上に發表せられたリカードウ價值論の發展 (The Development of Ricardo's theory of value) の翻譯を附してゐる。

六頁)を附してゐる。

イタリア人口論研究

(近世人口論の成立に對する其の寄與)

吉田 秀夫著

日伊協會 昭一六・三 菊判 二二四頁 二・〇〇

本書○イタリア中亞極東協會並に日伊協會が設定せるレオナルド・ダ・ヴィンチ賞の第二回入賞論文で、マルサスを鼻祖とする近世人口論の中に於けるイタリア人口論者の體系を明かにしたものである。近世人口論とマルサス、近世人口論とイタリア人口論者、近世人口論の構成、イタリア人口論者の體系の諸章に分れてゐる。

新東亞確立と人口對策

岡崎 文規著

千倉書房 昭二六・三 菊判 二八〇頁 二・八〇

著者は近時死亡率を低下せしむることに依つて我國人口問題は解決さるべし」と説く論者あるを遺憾として本業を著されたといふ。即ち著者はあく迄も人口政策確立の基本要綱である出生増加、死亡減少、資質増強の三方策を堅持してその趣旨の闡明に力めて居られる。内容は人口増強の必要・出生増加の對策・結婚年齢の分析・母性並に小兒保護對策・結核豫防對策等を主要なる題目としてゐる。著者は經濟學博士。

貨幣の生活理論

—貨幣經濟の本質に關する生活經濟學的研究—

宮田 喜代藏著

日本評論社 昭一六・二 菊判 七〇八頁 六・五〇

本書は著者多年の研究の成果を取纏め前記副書名を論文名として提出した學位論文を公刊したもので、内容は生活經濟學の方法(生活經濟學の特質・本質把握の基本問題・根本問題の階層組織・經濟學の課題・貨幣經濟の理論)・名目學說の貨幣經濟論(貨幣名目學說の發展・クナツプの貨幣國家的學說・ペンディクセンの指圖書券學說・エルスターの參加表券學說・リーフマンの計算單位學說・名目學說の生活經濟學的擴充)・貨幣經濟本質論(貨幣經濟本質論の構造・貨幣經濟の形態論的考察・貨幣經濟の職能的意味・貨幣の本質的職能・貨幣本質論に於ける双面主義と一面主義・貨幣の本質・貨幣の技術的評價・貨幣の經濟的評價)より構成されてゐる。著者は經濟學博士。

支那銀行制度論

宮下 忠雄著

巖松堂書店 昭一六・一 菊判 四八三頁 索引二四頁 五・〇〇

雜誌「支那研究」に發表せる論文を取纏め最新の資料(昭和十五年四月迄)に基いて訂正増補し更に一篇を加へて著したもので、内容は第一部支那銀行業の發展(清末支那銀行業の勃興、北京政府時代支那銀行業の發展、國民政府時代支那銀行業の發展)第二

部支那銀行業の統制機構(國民政府系金融機關・上海銀錢業の聯合準備制・上海の匯割制度)第三部支那銀行券の發行制度(最近支那に於ける紙幣法規・支那銀行券の發行準備制度・支那銀行券の領用制度)より成る。著者は東亞同文書院大學教授。

訂改 國民所得の分配

(財政金融研究) 沙見三郎等著

有斐閣 昭一六・三 菊判 二二三頁 附表六〇 二・八〇

本書は京都帝大大学院でこの方面の研究を續けてゐた財政金融研究會同人の合同研究を昭和八年公刊したものを今回その後の變化を考へ根本的に改訂したものである。各章の大體の分擔は次の如くである。

總論(沙見三郎) 國民所得分配の統計的研究方法(益田熊雄) 所得税法による國民所得の分配の研究(沙見三郎) 所得税法による國民所得の分配の測定(武田長太郎、沙見三郎) 戶數割による國民所得の分配の測定(毛利英於菟、結論(沙見三郎))

組織と技術の問題

馬場 敬治著

日本評論社 昭一六・二 菊判 三二七頁 三・五〇

組織に於いて種々の技術が用ひられ、これら技術はその組織の目的に合するやう統合せらるゝのであるが、本書はかかる見地から組織に於ける技術を考察するためその基礎的問題を論究したもので、内容は組織と技術に關する若干の基本的考察、經濟の本質と

原價の本質、國家的コストと企業のコスト、組織と技術の問題と綜合的研究、技術の影響の多様性に就いて、現代技術を構成する重要な三要素の各篇より成る。著者は東京帝大經濟學部教授。



和蘭の南洋植民史 第一部

鳥養太一郎著

丸善株式會社 昭一六・二 菊判 四九三頁 三・五〇

フアラントインの「新舊東印度誌」その他概ね歐人の著書に依據して、蘭船來航以前より十八世紀中葉までの、和蘭東印度會社を中心とする蘭領東印度の植民史を述べたものである。著者は南洋經濟研究所嘱託。

英領馬來緬甸及濠洲に於ける華僑

(南洋華僑叢書 第五卷)

南滿洲鐵道株式會社東亞經濟調查局編

同局 昭一六・二 菊判 七三四頁 索引一四頁 四・五〇

本書は華僑の大部分を占める南洋華僑の政治・經濟・社會及び文化の各方面に於ける實情及活動を各所在國別に究明した南洋華僑叢書第五卷で、第一編(五九〇頁)で英領馬來の華僑を、第二編で英領北ボルネオ・サラワク・ブルネイ・緬甸・濠洲及びその他

島嶼に於けるその實情を記述してゐる。井田季和太、須山卓之、國本嘉平次の諸氏の執筆に成る。因に本叢書中既刊のものは、第一卷タイ國に於ける華僑、第二卷佛領印度支那に於ける華僑、第三卷比律賓に於ける華僑、第四卷蘭領印度に於ける華僑、第六卷南洋華僑と福建・廣東社會である。

社會

支那の村落生活

アーサー・ヘンダーソン・スミス著
鹽波 安泰 雄譯

生活社 昭一六・一 菊判 四四九頁 四・八〇
著者は亞米利加の組合教會宣教師として三十餘年間支那に滞在して基督教の布教に従事し、支那社會事情の研究者として著名で支那に關する著述も多いが、本書は Village Life in China, 1899. の全譯書である。第一篇「村落その制度慣習及び性格」は鹽谷氏、第二篇「村落の家族生活」、第三篇「支那村落の刷新」は仙波氏の翻譯になるものである。寫眞數葉挿入。支那に關する研究書である。

滿蒙の民族と宗教

赤松 智城 著

大阪屋號書店 昭一六・三 四六倍判 四二六頁圖版100枚 索引三頁 10・00
外務省文化事業部の委嘱に依つて赤松、秋葉兩教授が昭和八年より十三年に至る五年間に亘つて現地踏査その他によつて研究された結果を集成したもので、内容は總説（赤松教授執筆）以下オロ

社會

チヨン族（秋葉隆）、赫哲族（赤松智城）、滿洲族（赤松智城）、蒙古族（赤松智城）、漢民族（秋葉隆）、回教徒（赤松智城）の六族に分つて研究され、卷末には參考寫眞が一〇〇枚一九五種類が附せられてある。著者は兩氏共京城帝大教授。

歐米の住宅事情と住宅政策 上卷 同 潤 會編

同會 昭一六・三 菊判 三九〇頁 五・〇〇
本上卷には英、米二國の住宅政策が詳細に述べられてゐる。特に金融活動に依り大規模の住宅經營をなしつつある米國に就いては州を分つて可也精細を極めてゐる。但緒言に依れば家賃統制及住居法等立法の具體的内容及其の實績に就いては別に特設された委員會にその研究を譲り本書には取扱はざる由。

勞働新體制研究

昭和研究会編

（昭和研究会勞働問題研究会報告）
東洋經濟出版部 昭一六・二 菊判 五四七頁 四・〇〇
傍題の示す如く本書は昭和研究会勞働問題研究会の第二回報告で、昭和十四年第一回報告として刊行された「長期建設期に於け

る我國労働政策」が労働政策の基本方針を究明したに對して、本書に於てはこの時局進展下に於けるその具體化を研究したものである。内容は労働新體制概論、組織論、勞務諸問題、現場に於ける諸問題、中小商工業に關する問題、インフレーションと労働問題の六部に分たれ、之に關係法令、統計表等が附録として加へられてある。

労働年鑑

昭和一五年版

協 調 會編

同會 昭一六・一 菊判 三九〇頁附録二一四頁 四・〇〇
昭和十四年中に於ける内外の労働事情を報導したもので、内容は日本、海外、附録の三部分に分たれ、日本の部は更に厚生行政、産業労働、新興政黨、労働組合並産業報國運動、協同組合運動、農業問題、農民運動、勞務者教育に分つてある。附録としては日本各種團體一覽、社會問題關係法規、内外政治經濟労働日誌、社會問題文獻、内外産業労働統計要覽の五種が附してある。

中國労働事情

パウエル・アルント著
沈觀展、羅學芬著
藤澤久 藏譯

生活社 昭一六・三 菊判 四六一頁 四・八〇
フランクフルト・アム・マイン大學に於て Paul Arndt 博士指導の下に沈、羅兩氏協力の下に成つた Der Arbeitshin in China を譯したものである。支那に於ける調査の成果を基礎として、賃

銀の問題を中心に支那労働者の状態を系統的に纏めたものである。支那の經濟制度と賃銀制度(パウエル・アルント)、支那に於ける賃銀形成の諸要因(沈觀展)、支那に於ける賃銀の高さ(羅學芬)の三篇に大別されてゐる。

ナチス勞務動員體制研究

菊池春雄著

東洋書館 昭一六・一 菊判 三八二頁 三・八〇
本書は元來本日録第一輯に掲げられた「ナチス戰時經濟體制研究」の最後の一編として起稿されたものを一書に獨立せしめたもので、従つて前著との關連が極めて深い。内容は一九三八年に制定された「國策上重要勞務力需要確保令」並に之に關連した施行細則を中心に、ナチス獨逸獨特の労働配置政策を研究したもので、國民勞務徵用體制への道、國民勞務徵用制の確立と其展開、戰時勞務動員體制、戰時勞務保護體制、ナチス勞務動員體制の特徵等の諸章が設けられてある。著者は企業院調査官。

ベルギー労働者家族の生活費(統計學古典選)

エングル著
森戸辰男譯

栗田書店 昭一六・一 四六判 四四〇頁 四・五〇
大原社會問題研究所に依つて編纂された統計學古典選集中の一巻で Die Lebenskosten belgischer Arbeiter-familien früher

und jetzt. Ermittelt aus Familien-Haushaltsrechnungen und vergleichend Zusammengestellt von Dr. Ernst Engel. 1895. の譯である。内容は十九世紀後半期に於けるベルギー労働者家族の生活費研究であるが、社會統計又は労働統計の領域に於て最も重要な古典の一つとされてゐる。尙卷末に「ザクセン王國における生産II及消費事情」の附録がある。

斷種法

(京城帝國大學)
法學會叢刊五

藤本直著

岩波書店 昭一六・三 菊判 三七五頁 參考文獻三頁 三・五〇
司法協會雜誌に發表されたドイツ及ドイツ以外の世界各國の斷種立法の情勢と實績に關する研究に加筆したもの(二九四頁)を中心とし、之に緒論(斷種とは如何なるものか、遺傳法則と斷種、斷種につき問題となる主なる疾患、斷種の法律的基础としての症適應)及び附篇(我が國に於ける國民優生法の成立)を加へて著はされたものである。著者は京城帝大法文學部助教授。

日本社會事業年鑑

第七輯
昭和一四、五年版

中央社會事業協會編

同會 昭一六・一 菊判 六九七頁 三・五〇
昭和十四年、十五年版の合冊で、内容は昭和十三年及び十四年中の事實に據つてゐる。附録として滿洲國の社會事業、關係法規、社會事業文獻等も掲げられてある。

理 學

大自然科学史 第一、二卷

ダンネマン著
加藤太正譯

三省堂 昭一六・二一三 四六判 二冊 各二・〇〇
Erichrich Danneemann. Die Naturwissenschaft in ihrer Entwicklung und in ihrem Zusammenhang. 4 Bde. 1923-22. の全譯で、年表索引共全九卷の豫定。第一卷は科學の發生から西紀初頭までの古代、第二卷は以後ルネッサンス迄である。學術的な研究書と云ふのではなく、平易に書かれた啓蒙書である。

宇宙線

ミリカン著
村上忠敬譯

恒星社 昭一六・二 四六判 一九七頁 二・五〇
原著者ミリカン (Robert Andrew Millikan) は宇宙線研究の世界的權威であることは云ふ迄もない。本書にはヴァージニア大學に於ける次の三つの講演が収められてゐる。譯者は名古屋高工教授である。

宇宙線の發見とその通性。超強力粒子。地球磁場と宇宙線エネルギー。

化學實驗學

第一部第九卷
第二部第四、六卷

河出書房 昭一六・二一三 菊判 三冊 二六・八〇

第一部 物理・無機・分析化學 第一
化學天秤使用法 (南英一)、重量分析 (加藤多喜雄)、金屬材料定量分析法 (斯波之茂、道野鶴松)、珪酸鹽の化學分析 (岩崎岩次)、稀元素鑛物分析法 (畑晋)

第二部 有機化學・生物化學 第四卷 反應篇 第一
酸化 (野副鐵男)、脫水素反應 (久保田尙志)、還元 (川合眞一)、接觸還元 (堤繁)、電解による酸化還元及び置換 (江見浩一)、生化學的酸化及び還元 (金子武夫)、アルカリ熔融 (村上増雄)、フリーラジカル (星野敏雄、横尾晃)、同位元素による反應機作の研究 (千谷利三、小泉正夫)

第二部 有機化學・生物化學 第六卷 合成篇 第一
炭素二重及び三重結合 (漆原義之)、過酸化物・オゾン (畑一夫)、オキシニウム化合物 (岩垂孝一)、ハロゲン化合物 (柴田林之助)、水酸基 (久保田勉之助)、アルコキシル基 (久保田勉之助)

錯 鹽

(岩波全書 第一〇〇)

井上敏著

岩波書店 昭一六・三 特小判 二七八頁 〇・八〇
無機化學の重要な部門である錯鹽の化學の研究で、配位數6の錯鹽、多核錯鹽、分子内錯鹽に關してその製法、性質、更にその構造決定、異性現象に至るまで詳説し、又、錯鹽化學の本質とも云ふべき錯鹽の立體化學に就いて記載し、終りに金屬錯鹽の性質と構造との關係として錯鹽の物理化學的研究を紹介してゐる。著者は學習院教授・理學博士。

天氣圖と天氣豫報 (科學新書第一)

大谷東平著

河出書房 昭一六・三 四六判 一二六頁 一・二〇
「物理實驗學」に執筆されたものに加筆して單行されたもの。著者は特に氣象技術官養成所の専修科生を目標に加筆訂正されたこと、内容は天氣圖の見方の説明を中心に、基礎的技術に主眼を置いて書かれた天氣豫報技術の入門書である。

晩秋記

辻村太郎著

古今書院 昭一六・二 四六判 七九三頁 四・五〇
本目錄第一輯に掲載した「續晩秋記」と同種類の、地質學に關した隨筆集である。陸の科學、乾燥地形水蝕地形及びカルスト地形の二篇が約百頁に及ぶ長文であるが、他は何れも十頁乃至三十頁の短かいものである。著者は帝大助教授。

生命の起原

オパーリン著
山田坂仁譯

慶應書房 昭一六・一 菊判 二八〇頁 二・八〇
A. I. Op. rin. The origin of life. Translation with annotations by Sergius Morgulis. 1928. の譯。生命の起原に關する諸説の紹介から筆を起し、分子から生物への進化を平易に説いたものである。哲學を學ばれた譯者の序に依れば、本書は「哲學と科學とのあるべき關係を示す一つの新しい典型」とも云ひ得るものである。原著者オパーリンはソ聯の生化學者として世界的に名あり、英譯し註を施したモルギユリスは米國ネブラスカ大學教授である。

日本の鳥類と其の生態 第二卷 山階芳麿著

岩波書店 昭一六・一 四六倍判 一〇八〇頁 一四・〇〇
本書の第一卷は三冊に分冊せられて昭和八、九年に互り梓書房から刊行されてゐるが、第二卷から分冊を止めて各巻毎に岩波書店より出版されることになった。刊行豫定は全五巻で第一巻より第三巻迄が舊北區の部、第四巻琉球臺灣、第五巻委任統治南洋諸島となつてゐる。生態寫眞を豊富に挿入して各々の鳥につきその分布、習性、害益、飼鳥としての價值等につき説明された活潑なものである。

栽培植物の起源

ドウ・カンドル著
加茂儀一譯

改造社 昭一六・二 菊判 八三八頁 附三〇頁 一〇・〇〇
Alphonse de Candolle. Origine des Plantes Cultivées. 1883.
の全譯。原著者カンドルの一家は父オーギュスト、本書の著者アルフォンズ、その子カシミール、孫オーギュスタンと四代に亘る瑞西の植物學者として著名である。本書は今より約半世紀以前の出版にかゝり、今日の發達した遺傳學や發生學や細胞學の助を知らず、當時の生態學的研究方法を土臺として、考古學・言語學等を援用したものであるにも拘らず、栽培植物の起源の問題に關す

る限り今日の新しい研究方法の結果と大部分に於て一致してゐることである。その意味で、文化史的の價值のあるものである。

日本羊齒類圖集 第八輯

緒方正 著

緒方正著 昭一六・三 特大判 圖版五〇枚 一六・〇〇
著者が北は樺太から南は臺灣迄、日本全國を踏査し自らスケッチされた羊齒の圖集で、昭和三年第一輯刊行以來今日に及んで居る。

醫 學

老 年 期

(教養文庫 第八六)

橋 覺 勝著

弘文堂 昭一六・二 特小判 一六七頁 五・〇〇
兒童期・青年期には醫學的にも心理學的にもその特質が認められ、各々の領域に於て研究が進んで居る。之と同様の特質が老年期にも認めらるべきであるがこの方の研究は餘り進んでゐない。著者をして云はしむれば由來我國人にも高年期に達してすぐれた業績を残した學者、政治家その他が極めて多い。然るに「その勞作内容・生活態度・社會活動には扶ふべからざる老人性陰翳が覆ひ、やはり老人としての精神構造の特質が窺はれる。」と云つてゐる。本書はこの老人としての精神構造の特質を對象として述べられたもので、類書の少いこの方面の研究には啓發的な入門書である。著者は東京府立高校教授。

學博士川崎近太郎、ホルモン及び臟器化學(三共高峰研究所技師、藥學博士平野四郎)

日常生活に於ける精神病理 (岩波文庫)

フロイド著
丸井清 泰譯

岩波書店 昭一六・三 特小判 四一五頁 〇・八〇
Sigmund Freud. Z. r. Psychopathologie des Alltagslebens の譯。日常生活中に起る種々の精神病理學的現象、即ち種々の失錯作業を精神分析學的研究の對象として研究したものである。譯者は東北帝大教授、醫學博士。

實驗外科學 第八版

三輪徳寛著
吉川春次郎著

南江堂 昭一六・一 四六倍判 九四二頁 索引一九頁 一五・〇〇
損傷篇・疾病篇・診斷及治療篇・手術篇・解剖篇の五篇に分れ、初版は大正八年に出版、本書は外科技術のめざましき發達と共に全般的に改訂を加へた第八版である。著者は何れも醫學博士、外科醫學の權威者で、本書は臨牀家向の研究書である。

藥學大全書

第一三卷

非凡閣 昭一六・二 菊判 三三二頁 三・〇〇

第一三卷 營養化學、ビタミン化學(厚生科學研究所助教授・藥學)

大日本小兒科全書 第五編 唐澤光徳等著

金原商店 昭一六・二 四六倍判 二一三頁 索引三六頁 六・〇〇

第五編 豫防及治療概論

小兒豫防醫學概論(慶應義塾大學講師、醫學博士中鉢不二郎)、小兒治療學概論(慶應義塾大學講師、醫學博士中村文彌)



家畜傳染病診斷學

獸疫調査所技術者集談會編

文永堂 昭一六・三 菊判 五八四頁 七・〇〇

農林省獸疫調査所技術官有志の分擔執筆になるもので、國策畜産擴充計畫遂行並に畜産資源の確保啓發の爲めに皇紀二千六百年記念事業として出版されたものである。總論に於て家畜傳染病診斷要領の概要を述べ、各論に於ては家畜傳染の豫防に重點を置き疫學的・細菌學的・血液學的・病理學的診斷法を解説し、更に家畜寄生虫症の診斷法をも附加包含したものである。實地家畜の研究書。

工學

應用流體力學

藤本武助著

丸善株式會社 昭一六・三 四六倍判 五〇頁 索引三頁 八・〇〇

序に依れば本書は流體力學の純理論の方面は餘り深く追究せず、主として航空機・水力機械等に應用さるべき諸問題を取扱つたとある。著者は京都帝大教授、工學博士。



架空索道

二宮勝太郎著

修教社 昭一六・一 菊判 五〇五頁 五・六〇

總説・單線論・複線論・輕便索道、及び塌鑿用索道・索條を應用したる他の運搬機械・旅客索道等について著者多年の經驗をもとにして全般的に平易に記述したるものにして二三の類書もあるが最も懇切なる圖書である。

支那水利史

(支那文化史) 鄭肇經著

大東出版社 昭一六・二 菊判 三〇八頁 三・二〇

著者は元國民政府水利局長にして譯者は早大教授工學博士である

工學

る。

本書は黄河を初め揚子江・淮河・永定河・運河等及び灌溉・海塘・水利職官等について、歴史的に要領よく纏めたものである。

地盤の沈下

(科學新書) 第三

宮部直巳著

河出書房 昭一六・三 四六判 一二二頁 一・〇〇

著者の序の初に「本書は東京市内の地表面に在る若干の標識の沈下に就てとでも題すべきであつた」とあるが、内容は全くその通りで、東京市内の若干の標識、例へば水準點等を基準に沈下を調査研究したものである。著者はこの研究に對し服部奉公會、文部省等から補助金を受けて居られるが、目下同研究は進行中で本書はその中間報告にも當るべきものと云つて居られる。著者は東京帝大地震研究所員、理學博士。



最新航空計測器

佐々木達治著

工業圖書株式會社 昭一六・一 菊判 二九五頁 三・五〇

寸時として已まざる各國の航空界は今や鎗を削つてゐる。而もそれが嚴秘の内に研究が進められてゐるのである。それを把握紹介することは至難中の至難である。しかるに本書には高度測定用計

工 學
器・速度計・方向姿勢指示用器・發動機用計器・酸素供給装置・航法用計器・自動操縦装置・計器盤等について氏の研究と各國の最近時の紹介に努めて遺憾がない。著者は航空研究所員、理學博士。

短波空中線の研究

加藤安太郎著
共立社 昭一六・二 菊判 三〇〇頁 四・五〇

現在世界に誇るべき我國獨特の短波空中線及饋電線方式を確立したのは著者にして、特に饋電線及空中線の共用方式などは全く同氏の苦心研究に負ふ處が多い。本書は著者が多年研究發表した論文などを修訂し纏めたものである。著者は國際電氣通信株式會社技師。

テレビジョン工學

高柳健次郎著
松山喜八郎著

コロナ社 昭一六・二 四六倍判 二二二頁 三・八〇
本書は決して高級な本とはいへないが邦文としては類書少きテレビジョン一般の解説書として親切な本である。内容はテレビジョン概論・テレビジョン撮像装置・送像回路・超短波送信機・テレビジョン中継・特殊テレビジョン等を扱つてゐる。著者高柳健次郎

料を挿入した茶室建築の専門書である。著者は斯界の權威者。

回轉爐製鋼法

大河内正敏編

科學主義工業社 昭一六・二 菊判 二四一頁 二・五〇
鐵鋼を輸入に依存せず、所要の數量を自給せんとせば現存の高爐・平爐を大擴張すると同時に粉鐵處理の爐の新設を企圖しなければ完全な自給自足は出来ないとして、執筆したのが本書にして大河内博士外九氏の専門家が各角度から回轉爐の試験、研究を報告したものである。

日本鑛業法原理

美濃部達吉著

日本評論社 昭一六・二 菊判 三二八頁 三・〇〇
本書は我國は我國現行の鑛業法の基本原理を明らかにし併せて其の規定の解釋適用を論述したもので、從來の大審院及行政裁判所の判例又は普通行はれてゐる見解に對して検討批判を加へた點が少くない。内容は精言・鑛業権の性質・鑛業権の内容・鑛業権の成立・鑛業権の變更・處分移轉及消滅・鑛業権者の土地使用權及收用權・鑛業権に伴ふ義務・砂鑛法の各章より成つてゐる。

工 學

四〇
郎氏は日本放送協會技術研究所第三部長である。

支那建築裝飾 第一卷

伊東忠太著

東方文化學院 昭一六・三 特大判 和文三〇〇頁 英文二五頁 非賣
昭和四年以來外務省文化事業部の助成により現地支那及び滿洲の建築裝飾を實地調査し、東方文化學院東京研究所が外務省管下に創立せらるゝに及び、其の研究員早稻田大學助教授工學博士田邊泰（解説起草）、工學士飯田須賀斯（資料蒐集及び編輯）、小澤省三（製圖）、松本吉雄（撮影）の諸氏の協力により、滿四ヶ年の歳月を費し、圖畫・拓本・寫眞等六千餘點の中より選抜考究を重ね四千七百二十三點九百四十三頁の圖版を収めたものである。第一卷は序説・支那建築の發生・支那建築の特性・支那建築の史的概説・支那建築の種類・支那建築裝飾概説・支那建築裝飾圖案の原理・支那建築裝飾の種類・文様・色彩の十章及び五十三圖の挿繪並に英文よりなつてゐる。

茶室建築

北尾春道著

鈴木書店 昭一六・三 菊判 三二二頁 五・〇〇
總説・茶室の史的考察・茶室の種類・茶室の平面・茶室の外観構成・茶室の内部構成の六章に分れ、挿繪繪寫眞百餘枚の得難き資料

化學工業大辭典 第二卷

非凡閣 昭一六・二 菊判 六〇六頁 五・五〇

合成樹脂と可塑物

杉本俊三著

工業圖書株式會社 昭一六・一 菊判 五二七頁 六・〇〇
合成樹脂及可塑物工業は近時工業界の寵兒である。金屬代用品として不足資源補充原料として、或は軍需品に或は民需品に進出している。茲に於て著者は昭和十年に出版した合成樹脂の改訂とその後長足の進歩せる可塑物工業について新しく論述したものが本書である。著者は大阪工業試験所技師、工學博士

合成樹脂 プラスチック 増訂再版

西澤勇志智著

内田老鶴圃 昭一六・二 菊判 七二〇頁 一〇・〇〇
昭和十五年一月初版刊行以來著名なりし本書は最近の目覺しき發展途上の斯學の爲に茲に早くも増訂を要求され左の二項を追補して出版したものである。
プラスチックの試験及檢定法、航空機材としてのプラスチック、索引。

四一

人織年鑑

昭和十六年版

日本纖維研究會編

大阪 同會 昭一六・一 菊判 一〇四〇頁 一〇・〇〇
スフ工業(本年度概観・統制)、人絹(人絹糸需給・人絹リンク
制・人絹織物生産状況・内需向人絹織物統制の諸問題・人絹織物
輸出・人絹リンク制の推移・一九三九年度世界人造纖維工業概
況)、バルブ(統制・代用バルブ關係團體)、新興纖維、附録等織
維工業全般につきて解説し、今後の纖維工業の再編成その他に互
つて各方面より論述したものである。

新毒ガスと煙

増補再版

西澤勇志 智著

内田老鶴園 昭一六・三 菊判 五六七頁 八・〇〇
毒ガス(化学兵器の由来、毒ガスの具備すべき性能、毒ガスの分
類、主要毒ガス剤、主要毒ガス剤の製法、毒ガスの試験法、毒性
と化学的構造、毒ガス剤の生理的作用、毒ガスの使用、毒ガスに
依る攻撃、毒ガス検知法)、煙(遮蔽煙、毒煙、信號煙)、焼夷劑
(焼夷劑、火焰)、防護と平時(毒ガスに對する防禦、都市防護、
防毒マスク、活性炭、化学戦と化学工業)、救急及治療。

國防及兵事

毒瓦斯と其の治療

森棟賢隆著

金原商店 昭一六・三 菊判 一六四頁 三・〇〇
總論に於て毒瓦斯に關する一般的概念を述べ、各論に於て毒瓦斯
の種類・性状・防禦法・救助法及び中毒・傷害に對する治療法を
精説し、附録に於て治療の對象となる烟霧について概説したもの
である。著者は醫學博士。

日本上代の武器

末永雅雄著

弘文堂 昭一六・二 四六倍判 三五五頁圖版二〇枚 三・〇〇
「日本上代の甲冑」(昭和九年)を出した京大考古學教室にある著
者は、その續篇とも見らるべき本書に於て、實戰的性能を有する
武器は時代の信仰と科學と文化を反映せるものであるとの見地に
立つて、考古學的及び文化史的觀點から、前篇に於ては日本上代
武器の總括的考察を展開し、後篇に於ては各種武器の實證的研究
を披瀝してゐる。圖版及び挿繪頗る豊富。

美術

美のかたち

木村素衛著

岩波書店 昭一六・二 四六倍判 二四九頁 一・五〇
形式と理想・形成・映畫の視覚・觀ることと作ること・ヘーゲル
に於ける藝術美のイデーの五篇からなり、體系的のものではない
が美學・哲學の啓蒙書である。著者は京都帝大教授、文學博士。

山本芳翠

長尾一平編

長尾一平 昭一六・一 菊判 二二七頁 非賣
嘉永三年に生れ明治三十九年に死去した我國洋畫壇の開拓者山本
芳翠追憶の爲に出版されたもので、作品五十餘點・書簡並に寫眞
數葉を挿入、和田三造外數氏の追憶記並に幼年期より美術學校卒
業迄を前期、洋行時代を中期、歸朝後を後期とした傳記よりなつ
てゐる。



美術

日本近世名畫大觀

上・下卷

恩賜京都博物館編

中島泰成閣出版部 昭一六・二 和特大判 二冊 二〇・〇〇
昭和十五年十月二十三日より十一月六日まで恩賜京都博物館に於
て開催された紀元二千六百年奉祝記念「日本近世名畫展覽會」に
出品された桃山時代より江戸末期に至る間の畫壇各派の遺作を圖
録として出版したもので、一五九圖の逸品が收められてゐる。

日本美術大系

第二卷 田中一彦編

誠文堂新光社 昭和一六・二 四六倍判 五三八頁 八・五〇
第二卷 彫刻篇
總説(小林剛)、佛像彫刻(野間清六・梁月信成・金森遼・澁
江二郎・岡田敬男・吉田長善・谷信一・小林剛)、骨像彫刻(大
口理夫・渡邊一・後藤守一・野間清六・小林剛、大口理夫)
東京帝大教授、文學博士藤懸靜也監修になるもので、圖版數葉挿
入。日本美術大系は全六卷出版の豫定。

東洋畫題綜覽

第一册

金井紫雲編

あいら 雲舞堂 昭一六・三 和特大判 一〇〇頁 三・〇〇
古く有名なものから新しい作品に就いて出所典據を明示した東洋

畫題解説書で、題名を五十音順に排列し、本書には「あ」より「う」までが収められてゐる。尙ほ巻頭に挿圖四十四葉を蒐録し、鑑賞上或は制作の上の研究参考資料である。

印度古代美術

逸見梅 著

第一青年社 昭一六・一 菊倍判 二一八頁 三〇・〇〇

著者は數十年間印度に滞在した印度古代美術の研究家である。釋尊の四大靈地をはじめサンチー其他の佛教古蹟地及び婆羅門教廟堂を巡視し、サンチー諸塔の彫刻を中心としバルハット並に佛陀伽耶の彫刻の寫眞圖版三二二圖を収めそれに解説を付したものである。

薩摩焼の研究

田澤金吾 著

東洋陶磁研究所 昭一六・三 菊倍判 三〇九頁 二八・〇〇

昭和九年四月東洋陶磁研究所に於て所員小山富士夫及び文部省國寶保存會囑託田澤金吾の兩氏に依頼し大隅薩摩の帖佐・串木野兩窯址の發掘を行はしめ、窯址遺物の蒐集及び精査の研究を取纏めたものが本書で、序説・窯址調査概況・各論・後説の四章並に古

記録篇・薩摩焼年表・薩摩焼に関する文献目録の附録よりなり、圖版七十四葉挿入、我國窯業史を飾る研究論文である。

陶器大辭典

陶器全集刊行會編

寶雲會 昭一六・一―二 四六倍判 二冊 各一八・〇〇
卷一、あ―お、圖版七八枚、六一四頁、昭和一六年二月發行。
卷六、補遺・索引、圖版一〇〇枚、六二二頁、昭和一六年一月發行。國寶及重要美術品陶器、陶磁器年表を収む。

京都古銘聚記

川勝政太郎 著

スズカケ出版部 昭一六・三 菊判 四〇六頁 一〇・〇〇

京都を中心とする山城國現存の金石文二百餘點及びそれに準ずべき古銘物件五百餘點を聚録したもので、奈良・平安・鎌倉・吉野朝・室町・桃山の各時代の年代順に集めたもので、總べて實査検討の結果によるものである。
金石文學史の展開と京都古銘遺物(川勝政太郎)、古銘文とその發願者について(佐々木利三)の研究論文及び異體文字一覽・京都古銘物件分布圖・京都古銘遺物時代別分布圖並に京都古銘物件所在地一覽表・物件索引・年號索引が附加してある。圖版數葉挿入、考古學の研究書。

諸藝

三絃樂史

中川愛水 著

大日本藝術協會 昭一六・二 四六判 一〇一六頁 非賣
九編に分類され 第一編三絃樂前記は三味線の構成に就いて、第二編三絃樂横史、第三編三絃樂縱史に於ては三絃樂の發達狀態を概説し、第四編三絃樂戸籍にては曲譜、第五編三絃樂流用にては演劇に於ける流用を述べ、第六編三絃樂研究に於て聲及び三味線並に作曲の苦心、第七編三絃樂雜綴にて逸話言行、第八編三絃樂記にて三絃樂の維持及び發展に関する意見を語り、第九編三絃樂交渉は著者五十年間三絃樂界との交渉の記録を述べたものである。三絃樂に因む繪畫二十六葉を挿入し、著者古稀記念として出版された研究書である。

淨瑠璃研究書

木谷蓬吟 著

第一書房 昭一六・三 菊判 二九五頁 二・八〇
著者は大阪に生れ淨瑠璃の雰囲気の中に五十餘年を數へた淨瑠璃愛好家研究者で、始祖義太夫の傳記・巨匠政太夫の業績等世に埋れ或は誤傳されたものを正した研究篇と隨筆並に附表の近世人形淨瑠璃一百年年表よりなつてゐる。

西洋音樂史

パウル・ベツカー 著

河上徹太郎 譯

序に依れば本書はフランクフルトで行つた放送講演を纏めたものとのこと。譯者の言葉がないので斷定は出来ないが Paul Bekker: Musikgeschichte als Geschichte der Musikalischen Formwandelung 1926. の譯と思はれる。音樂の歴史には變化こそあれ發達はない。あらゆる時代の音樂は、總つて藝術的絕對價値に於て等しいと云ふこの著者の所論は、所謂發達史的に扱つた音樂史に對して若干の異色がある。著者の言葉を藉りて云へば、本書は「音並に音響形式の生活史、又それを把へて藝術の一形式を創造した人間感受性の變遷の歴史」として觀察したものである。

舞臺裝置の研究

伊藤嘉朝 著

小山書店 昭一六・三 四六倍判 二二六頁 四・八〇
美術學校西洋畫科卒業とにも舞臺裝置家となり、爾來二十餘年間千近くの作品の舞臺裝置の豊富な經驗を積んだ著者が舞臺裝置に關する基本的な知識を解説したものである。デザイン及び寫眞數葉を挿入し、専門家に一般向の研究書である。

産業

日本産業發達史の研究

小野 晃 副著

至文堂 昭一六・三 菊判 三九二頁 四・〇〇

著者が近世城下町の研究を公表後、中世産業史の問題について研究した左記五論文を集めたもので、各論稿の「起草の意圖は近世重要諸産業發達の源流を中世社會の裡に求めようとしたのである」と著者は序文中に述べてゐる。

「中世に於ける製紙業と紙商業」「中世酒造業の發達」「室町幕府の酒屋統制」「木邦木綿機業成立の過程」「吳綿考—中世織維工業史への脚註—」

時局と中小工業(日本學術振興會第二) 一 轉失業問題

山中篤太郎編

有斐閣 昭一六・三 菊判 五〇三頁 附録八六頁 四・八〇

日本學術振興會は中小工業に關する學理的究明を行ふため、問題を中小工業の基本的研究・時局と中小工業・海外中小工業研究の三部に分ち委員を擧げて研究を集めてゐるが、本書はその業績の

小作權

花島 得 二著

—特に權利の經濟的價值・評價・賠償・金融に關して—

松山房 昭一六・三 菊判 四六一頁 索引一九頁 四・三〇

本書は小作權の史的發展、起因、價格の成立、價格の構成要因等を含む經濟的特質の研究を中心とする著者多年の業績報告で内容は序説・小作權の概念・小作權の發展史論・小作權の起因分類と地方的名稱・小作權の經濟價值研究・小作權の評價賠償法・小作權價格生成上の特殊性・小作權の地方的實證的研究の各章より成る。著者は日本勸業銀行鑑定役、

精米と精穀

二瓶 貞 一著

西ヶ原刊行會 昭一六・三 菊判 六四四頁 一〇・〇〇

著者は農林省農事試験場技師、京都帝大農學部講師で兼に「實驗精米要説」を出版し再版を重ねたが、今般斯道の進歩變革と共に根本的に書き改めて上梓したものが本書である。精米編、精穀編に分つて精説され、精米精穀關係の資料を廣く蒐集採用した研究書である。

臺灣米穀經濟論 (日本學術振興會第二) 十一小委員會報告

川野 重 任著

有斐閣 昭一六・一 菊判 三八六頁 三・八〇

著者が日本學術振興會第二十一小委員會に於て東畑委員の助手

一卷で、轉失業問題(山中篤太郎)、業種別觀察(赤松要・小出保治・田杉波・田中定・豊崎稔・藤田敬三・山中篤太郎)、勞働力と轉失業問題—支那事變と失業問題—(美濃口時次郎)轉失業問題の機構(磯部喜一・波多野貞夫)の各章より成り、附録として轉失業資料、轉失業問題文獻を附してゐる。

獨逸職業競争 (日本學術振興會第二) 十三小委員會報告

海外中小工業研究

波多野貞夫著

有斐閣 昭和一六・三 菊判 三七八頁 三・〇〇

日本學術振興會によつて進められてゐる中小工業に關する研究(別掲「時局と中」)の業績の一卷で、「綜合的産業振興競争の提唱」(小工業)参照)の業績の一卷で、「綜合的産業振興競争の提唱」と前置きとし、以下獨逸職業競争につき、全國職業競争制度の使命と沿革・全國職業競争の組織・課題・成績審査・總括的評價・全國職業競争の優勝者及び才能ある者に對する表彰・全國職業競争に於ける特殊活動・全國職業競争の反影と體験の各章に分つて詳説したる後その梗概(獨逸に於ける全國職業競争制度)及附録(技能競争の行政的出發、愛知時計電機株式會社に於ける旋盤職能競争)を加へてある。著者は日本學術振興會學術部次長

として臺灣米につき生産方面と商取引方面の兩面に亘り研究したものを取纏めたもので、内容は臺灣米穀問題の意義、米作農業發展の諸過程・米穀生産發展の諸様相・米糖の相剋・米穀商品化の機構・米穀の取引段階に於ける跋行性・市場問題・米價の構成・米穀移用管理政策の登場、の各章より成つてゐる。著者は東京帝大農學部助手。

土壤微生物學概説

岡田 要之助著

養賢堂 昭一六・三 菊判 二五八頁 三・五〇

土壤の微生物相・土壤微生物の生活作用・腐植質の三編よりなり、土壤微生物の種類・數量・生活作用並に腐植質の問題等について概説したもので、土壤微生物學としては類書珍いものである。著者は東北帝大教授、農學研究所員、理學博士。

農業機械化の基本問題

吉岡 金 市著

白揚社 昭一六・一 菊判 三四四頁 三・〇〇

昭和十四年に出版された「日本農業の機械化」の姉妹篇として、出版されたもので、第一編「農業機械化の理論的基礎」に於て理論と分析を述べ、第二編「農業機械化の技術的基礎」にてそれぞれ實驗成績に基いて概説し、第三編「日本農業機械化の特殊性」

にて岡山縣新潟縣の事實に就いて説明し、第四編「農業機械化の發展過程」にて秋田縣東京府の事例を挙げ最後に農業機械化の現段階的意義を農業生産力の擴充の見地から結論を下してゐる。各章は何れも獨立の論文として「農政」「帝國農會報」「現代農業」「農業と經濟」等の諸雑誌に發表したものである。著者は日本労働科學研究所員。

農業經營の新機構

白揚社 昭一六・三 菊判 二四八頁 二・五〇

農業労働力の減少、農業生産資材の不足等經營條件の悪化に對處し、主要食糧農産物の増産を實質的内容とする農業生産力の擴充を實現せしむべき増産方策の確立と農業經營機構の再編成は刻下の急務とせられてゐる。本書は時局下農業經營の諸問題に對し帝國農會勤務の著者の多年に亘る研究を取纏めたもので、内容は左の四篇よりなつてゐる。「農業労働力流出と農業經營問題」「農業生産力擴充と農業經營問題」「時局下農業經營の運營問題」「農業經營適正規模問題」

農業水利構造學

牧 隆 泰著

丸華株式會社 昭一六・三 菊判 六七〇頁 九・〇〇
「前論農業水利構造物の總括的研究」に於て農業水利・構造物の

體・本邦農業人口と農業開拓民・外地農業事情、の十六章並に附録に分れ、農業數理計數を基とした昭和十六年の年鑑である。

蠶絲年鑑

昭和十五年版

大日本蠶絲會編

大日本蠶絲會 昭一六・三 菊判 二〇四頁 一・七〇
昭和十四年度蠶絲業大觀・桑畑・養蠶・蠶絲・法規及官廳會議・團體主要會議關係主要問題の各項よりなる年鑑。本年鑑は昭和六年以來刊行。

廣東省の造林

田 添 元著

南支調査會 昭一六・二 菊判 一三三頁 一・〇〇
昭和十五年二月から三月に及んで廣東省の實地調査及び見聞を基礎とした造林研究書である。著者は臺北帝大教授、林學士。

木材乾燥法

松 本文 三著

工業圖書株式會社 昭一六・二 菊判 三九二頁 五・〇〇
本書は木材乾燥の理論と實際とについて、之を著者多年の經驗を基礎として述べたるものにして、現在最も重要な地位を占め、

全體的認識・綜合的理念を明かにし、「農業水利構造物の造構各論」に於て農業土木として水に關係し耕地の改良擴張其他國土の農業水利開發に必要な構造物の全體的知識及びその各々の造構を概説した研究書である。著者は臺北帝大教授、東京帝大講師。

農業土木行政

鶴崎多一著

松山房 昭一六・三 菊判 四一二頁 附録三七頁 三・八〇
著者は興亞院調査官。總論に於て農業土木行政の全般に就いて概説し、各論に於て農業水利行政・開墾行政・耕地整理行政に關して詳述したものである。
農業土木行政全般に亘る類書は稀れで、農業生産力擴充・食糧増産を急務とする非常時局に際し専門家並に一般農業従事者向の研究書たるべきものである。尙ほ附録として耕地整理法・開墾助成法・農業水利臨時調整令・河川法・水利組合法が附記してある。

農業年鑑

昭和十六年版

帝國農會編

帝國農會 昭一六・一 菊判 八二二頁 二・五〇
日本農業の再編成・事變下の帝國議會・新體制と農業團體・農村社會運動・農業生産要素・農業經營及農産物生産費・農家經濟・農業生産物の生産並需給・農産物取引及價格・農業保險・農村金融・農村財政及農民負擔・農村社會施設・農林行政及農業關係團

且つ廣く實施せられつゝある蠶乾燥及び近年漸く實用化の域に達し、しかも將來性を有する真空乾燥に對して深く考案した懇切なる圖書である。

統制經濟と株式取引所

松 本 信 次著

巖松堂書店 昭一六・二 菊判 四六三頁 四・五〇
著者が多年從事せる株式取引所研究を集大成した學位請求論文で、私有財産制が認められ且つ中央機關による資本分配が實現されない以上高度統制經濟下にあつても株式取引所の存在理由は消滅しないと著者の基本理念によつて、我國の株式取引所制及政策を過去現在に亘つて批判解剖し將來の動向をも明にせんとして著したものである。内容は、證券資本主義・株式取引所の意義・株式取引所の職能・證券市場に於ける株式取引所の地位・本邦株式取引所制度の發展・統制經濟と株式取引所・支那事變下の本邦株式取引所・附録株式取引所の改革案より成る。著者は法政大學教授、經濟學博士。

本邦通商政策條約史概論

川島信太郎著

巖松堂 昭一六・二 菊判 五九五頁 附録表三頁 五・八〇
著者は明治四十年以來外務省に在つて通商條約の改正運用に携は

つて來てをり傍ら東京商大講師であるが、かねて本邦通商條約改正史編纂を志し、其中間報告的に公刊したのが本書で、第一部本邦通商政策概論に於て通商政策に關する各問題を、第二部本邦通商條約史概論に於て安政條約時代より前世界大戦後の條約改正並に對鮮滿條約關係強化に至る迄を大體時代順に述べ、更に第三部本邦貿易對策諸論に於て日本貿易の統計的研究（支那事變發生の經濟的背景）その他時局下通商政策に關する論文四編を加へてある。



遞信事業史

第六卷

遞信省編

遞信協會 昭一六・二 菊判 一三四三頁 〇・〇〇
本卷には電氣・電氣試験・管船・燈臺を取扱つてある。

書名索引

ア	
アナトオル・フランス長篇小説全集…12	
イ	
伊京集……………14	
英吉利浪漫象徴詩風……………11	
維新史料綱要……………17	
イタリヤ人口論研究……………28	
一般史……………16	
印度古代美術……………44	
ウ	
宇宙線……………34	
ウル・マイステル研究……………11	
エ	
英領馬來、緬甸及漆洲に於ける華僑…29	
オ	
大阪商科大学 創立六十周年記念論文集……………26	
歐米の住宅事情と住宅政策……………31	
應用流體力學……………39	
奥の細道・芭蕉・蕪村……………9	
御觸書天保集成……………25	
和蘭の南洋植民史……………29	
カ	
	回轉爐製鋼法……………41
	海南島志……………21
	化學工業大辭典……………41
	化學實驗學……………34
	架空索道……………39
	華山全集(補訂)……………2
	家畜傳染病診斷學……………38
	河南安陽遺物の研究……………18
	貨幣の生活理論……………28
	廣東省の造林……………49
キ	
	鏡花全集……………10
	行政法の基礎理論……………23
	京都古銘彙記……………44
	經錄研究……………3
	虛子俳句全集(年代順)……………9
	近世小説……………10
	近世佛蘭西史學概観……………16
	近世佛蘭西に 及ぼしたる 獨逸の影響……………11
ケ	
	經濟政策の諸問題……………27
	經濟社會學の根本問題……………26
	經濟團體總覽……………26
	ゲーテ的人間……………11
	氣比宮社記……………3
	寒寒錄……………17
	言語活動と生活……………14

コ

合成樹脂と可塑物……………41
 合成樹脂プラスチック……………41
 行動主義心理學……………7
 高野山文書……………3
 國學……………6
 國語問題正義……………14
 國民所得の分配(改訂)……………29
 小作權……………47
 古淨瑠璃正本集……………10
 古代詩歌に於ける神の概念……………8
 古典の批判的處置に関する研究……………1

サ

西行全集……………8
 最新航空計測器……………39
 栽培植物の起源……………36
 錯鹽……………35
 薩摩の研究……………44
 三枝樂史……………45
 蠶絲年鑑……………49

シ

シェイクスピアと獨逸精神……………12
 時局と中小工業……………46
 實驗外科學……………37
 支那銀行制度論……………28
 支那建築裝飾……………40
 支那水利史……………39
 支那の村落生活……………31
 支那文學史……………11
 地盤の沈下……………39
 上官聖德法王帝說……………20

淨土宗大年表……………3
 淨瑠璃研究書……………45
 昭和十四年の國際情勢……………23
 ジョン・ラスキン……………20
 シラー選集……………13
 シラーと希臘悲劇……………12
 史料大成……………17
 新監獄學……………24
 人續年鑑……………42
 新獨逸國家大系……………22
 新東亞確立と人口對策……………28
 神道美術展覽會圖録(紀元二千六百年奉祝)……………3

セ

性格心理學……………7
 政治問答……………22
 聖蔭東郷全傳……………20
 精神現象學……………6
 聖トマス・アキナス……………4
 精米と精穀……………48
 生命の起源……………35
 西洋音樂史……………45
 世界大戰回顧錄……………18
 世界地理……………21
 戰時經濟と勞務統制……………27
 先秦政治思想史……………22

ソ

續眞宗大系……………3
 組織と技術の問題……………29

タ

大西郷書翰大成……………20
 大自然科学史……………34

大南一統志……………21
 大日本國語辭典(修訂)……………15
 大日本古文書……………17
 大日本小兒科全書……………38
 大日本史料……………18
 大日本年表……………16
 臺灣米穀經濟論……………47
 達摩……………4
 斷種法……………33
 短波空中線の研究……………40

チ

地政治學の基礎理論……………21
 地政治學論……………21
 茶室建築……………40
 中國勞働事情……………32

テ

通信事業史……………50
 テレビジョン工學……………40
 天氣圖と天氣豫報……………35

ト

獨逸職業競争……………46
 ドイツ文章論……………14
 東亞經濟研究……………26
 陶器大辭典……………41
 統制經濟と株式取引所……………49
 東方學報……………1
 東洋畫題綜覽……………43
 東洋讀史地圖……………18
 東洋文化史上の基督教……………4
 トーマス・マン全集……………13
 毒ガスと煙……………42

毒瓦斯と其の治療……………42
 土壤微生物學概説……………48
 トルストイ傳……………12

ナ

ナチス勞務動員體制研究……………32
 南傳大藏經……………3

ニ

日常生活に於ける精神病理……………37
 日本近世名家大觀……………43
 日本檢察法論……………24
 日本鑛業法原理……………41
 日本産業發達史の研究……………46
 日本羊齒類圖集……………36
 日本社會事業年鑑……………33
 日本上代の武器……………42
 日本都市年鑑……………22
 日本の鳥類と其の生態……………36
 日本美術大系……………43
 日本法制史研究……………24

ノ

農業機械化の基本問題……………47
 農業經營の新機構……………47
 農業水利造構學……………48
 農業土木行政……………48
 農業年鑑……………48

ハ

白秋詩歌集……………9
 芭蕉・去來……………9
 暮山全集……………2
 晩秋記……………35

ヒ
美のかたち……………43

フ
武家時代と禪僧……………4
舞臺装置の研究……………45

ヘ
ベスタロツチー傳……………20
ベルギー労働者家族の生活費……………32
ベルシヤ宗教思想……………5
ヘルマン・ヘツセ全集……………13

ホ
法哲學原理……………24
本邦通商條約史概論……………49

マ
毎日年鑑……………1
眞山青果全集……………10
滿蒙の民族と宗教……………31
萬葉集研究年報……………8
萬葉の作品と時代……………8

ミ
三浦梅園の哲學……………6
水戸學大系……………6
水上瀧太郎全集……………10
民族心理學……………7

モ

蒙露日大辭典(最新標音)……………15
木材乾燥法……………49

ヤ
藥學大全書……………37
山鹿素行全集……………2
山本芳翠……………43
山本有三全集……………10

ヨ
吉江喬松全集……………10

リ
リカードウ研究……………27
六國史(國文)……………16
六國史(増補)……………16

レ
黎明期の海外交通史……………17
歴史(ヘロドトス)……………18
歴史理論の構成……………16
連歌青葉集……………9

ロ
労働新體制研究……………31
労働年鑑……………32
老年期……………37
露支交渉史序説……………18

ワ
ワーグナー全集……………13

— 終 —

Handwritten notes in Japanese characters, including the number '912' and '220' written vertically.

912
220

昭和十六年八月二十日 印刷
昭和十六年八月二十五日 發行

帝國圖書館編纂

印刷所 鐵道弘濟會印刷場
東京市下谷區上野山下町二番地

912
220

製本控

912	國	220	號	年	1714.24	日
圖書館書籍標準目錄 第二輯						
市立圖書館 贈送						
單						

書館編纂

印刷

印刷所 鐵道弘濟會印刷場
下谷區上野山下町二番地

912

220

終

